平成27年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策等）
1 看護師・介護福祉士に求められる学力の定着のため、本校の「スクールポリシー」「学力スタンダード」に基づいて、授業の工夫改善に努める。	① ICT機器、視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の学習への関心を高め、内容の理解を促進する。	「授業においてICT機器、視聴覚教材を活用している」の肯定評価の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満である。	十分活用している　16．7% 活用している　54．2% あまり活用していない　25．0% 活用していない　4．2% 肯定評価　70.9% 評価　B	ICT機器の効果的な活用について、研究授業及び校内研修会を実施した。各教科で、言語活動の充実に繋がるICT機器の活用に取り組んだ。 今後、適宜使用できる環境整備に一層努め、協働学習で意図的にICT機器を活用し、スクールポリシーを踏まえた学習指導を実践する。
	② わかる授業の実現に向けて、学習形態や指導方法、教材教具等の工夫改善をする。	「授業は興味深く、学習意欲が湧くように工夫されている」と評価した割合が、 A　80%以上 B　75%以上 C　70%以上 D　70%未満である。	全　校　76．2% 1年生　68．5% 2年生　73．0% 3年生　83．1% 専攻科　87．3% 評価　B	中間評価から3．5%上昇した。1年生の肯定評価が他学年と比較して依然として低い。生徒の学習意欲・関心を高めるために、グループ活動等を適宜取り入れた学習形態や指導法の工夫をする。 また、共通教科と専門教科の指導連携を強化する。
	③ 思考力、判断力、表現力の育成を図る指導法を開発し実践する。	「考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が A　85%以上 B　80%以上 C　75%以上 D　75%未満である。	全　校　78．6% 1年生　67．5% 2年生　75．1% 3年生　86．4% 専攻科　90．6% 評価　C	各学年の評価は、数値的には中間評価とほぼ同じ結果だった。 学年が上がる毎に、事例検討等の協働学習、発表や討論の活動を積極的に取り入れた成果が現れている。 1年生から、生徒の知的好奇心を喚起する、生徒主体の学習活動を積極的に導入し、思考力や判断力、コミュニケーション力の育成を目指す。

学校関係者評価委員会の評価	ICT機器が効果的に活用できる教室等の環境整備が整いつつある。生徒の「わかる授業」に対する評価が学年を増すにつれて上がっていることから、教職員の工夫を感じることができる。今後も生徒にとって「興味深く、意欲が湧く」授業となるよう、継続して取り組んでもらいたい。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・ICT機器の効果的な活用による言語活動の充実など、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒の学習意欲の向上や、学習内容の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力等の育成を目指す。 ・共通教科と専門教科間での情報交換をさらに行い、効果的な指導法の実践を共有化する機会を設けることにより、看護師・介護福祉士に求められる基礎知識を定着させ、一層の学力向上に努める。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
2 専門教科指導を充実させ、看護師・介護福祉士国家試験100%合格を目指すとともに、専門職に就く者としての資質の向上に努める。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値42未満の生徒が A　0人 B　2人 C　4人 D　5人以上　である。	看護模試(1月)実施 1年生　3人 評価　C 2年生　4人 評価　C 3年生　3人 評価　C	1年:学校偏差値(専門)53.8。人体の構造と機能の基礎知識の定着に困難を感じる生徒への補充学習を実施し、学習方法の確立と確実な知識の定着を図る。 2年:学校偏差値(専門)53.4。学力低迷者への補充学習を実施し、確実な知識の定着を図ると共に自律的な学習方法を身に付けさせる。 3年:学校偏差値(専門)54.0。学力低迷者の課題学習への取り組みを徹底し、自律的学習の促進と共に確実な知識の定着を図る。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値40未満の生徒が A　0人 B　1人 C　2人 D　3人以上　である。	＜専1年＞看護模試(3月) 必修　0人(評価 A) 一般　0人(評価 A) ＜専2年＞看護模試(1月) 必修　0人(評価 A) 一般・状況 0人(評価 A) ・看護師国家試験(2月) 全員合格	＜専1年＞総合偏差値59.9。毎朝配付する課題を丁寧に調べ学習することが定着し、理解しながら学習を進める習慣が身についた。今後、事例演習を重ね、情報分析力・問題解決能力を高めていく。 ＜専2年＞総合偏差値58.8。放課後グループ学習を継続。成績順にグループ編成を行い、低迷グループは教員が支援。また、模試結果を分析し、全体補習で弱点補強した。今回の国家試験では、アセスメント能力や判断力を問う問題が増え、演習を充実させていく。
	③ ＜1、2年生＞ 自学ノートによる学習を課題とし、毎日継続して学習する習慣を身につける。 ＜3年生＞ 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。	＜1、2年生＞ 課題を提出する生徒の割合が A　100% B　95%以上 C　90%以上 D　90%未満　である。 ＜3年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A　100% B　95%以上 C　90%以上 D　90%未満　である。	＜1年生＞ 課題を提出する生徒の割合は 95.9%　評価　B ＜2年生＞ 課題を提出する生徒の割合は 93.2%　評価　C ＜3年生＞ 得点率65%以上の生徒の割合は 100%　評価　A ・介護福祉士国家試験 (1月)　全員合格	＜1年生＞少しずつ課題を提出しなければならないことを理解していき、左記のような結果となった。家庭学習習慣化の必要性を早期から理解させるために、学習方法の説明をより詳しく行い、学習に取り組みやすくする。 ＜2年生＞提出の呼びかけの頻度を上げたり、個々に対して働きかけをすることにより93.2%と中間評価から16.7%の上昇となった。家庭学習の習慣化や提出の期限を守ることについては、毎日の言葉かけを根気強く行っていくことが必要である。 ＜3年生＞第28回介護福祉士国家試験において全員が得点率65%以上であった。早期からの個別指導やゼミ形式の8・9限目補習など、生徒全員が最後まで諦めずに課題に取り組んだ成果であると思われる。早期からの個別学習や小グループ学習が効果的であったため、来年度の生徒にも個々に応じた早期からの指導を行う。

学校関係者評価委員会の評価	両科ともに国家試験合格率100%を維持していることは大変素晴らしい。生徒は中学生の頃から将来の進路を定め入学している。今後も資格取得を目指し、全員合格を継続してもらいたい。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・看護師・介護福祉士国家試験の全員合格を継続するため学習面での指導はもちろん、悩みの相談などカウンセリングも含め指導体制をより一層充実させる。 ・国家試験の出題傾向が年々変化してきていることを踏まえ、分析をしっかり行い指導を工夫していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策等）
3 地域の医療・福祉を支える人材輩出のために本校が果たしている役割や取組の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、中学校訪問、個別説明会等を通して、看護師・介護福祉士の魅力と必要性や本校への理解に繋がる広報活動を行う。	【最終成果指標】 健康福祉科の一般入試の志願者数が昨年度より A大きく上回った。（30%以上） B上回った。　（20%以上） C変わらなかった。 D下回った。　（10%以上）	健康福祉科一般入試志願者数 平成28年度入試　16名 平成27年度入試　20名 評価　D	推薦入学志願者数は昨年度より増加したが、一般入試では減少した。介護福祉士の必要性について理解は得られたものの、その仕事のやりがいや魅力、将来性を伝えきれなかった。 介護の魅力を福祉施設、関係機関と連携して発信していきたい。
		【中間成果指標】 奥能登地区、加賀・小松・羽咋地区における説明会の参加者数が昨年度より A　20％以上増加した。 B　10％以上増加した。 C　変わらなかった。 D　下回った。	評価 羽咋地区　B 加賀地区　C 奥能登・小松地区　C	昨年度同時期の学校説明会、個別説明会の参加人数と比較し羽咋地区は増加、奥能登・小松地区は変化がなかった。また、白山地区の参加人数が2倍の増加、金沢地区は減少した。 健康福祉科への県南・県中央・奥能登地区からの志願予定者数は昨年度と大きな変化はなく、介護福祉士の役割や魅力についての広報活動を一層強化する必要がある。

学校関係者評価委員会の評価	地域の医療・福祉を担う学校として、人材確保に努めてもらいたい。衛生看護科の志願者は確保できているが、健康福祉科の志願者が伸び悩んでいる。学校だけの努力では解決できないこともあるのかもしれないが、介護福祉士に対するイメージを高める工夫が望まれる。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	地域の小・中学生に対し、『福祉』について知ってもらえるよう、健康福祉科の教員による出前授業を今後も継続して行う。子どもたちはもちろん、教員に対しても『福祉』への関心を深めてもらう努力をする。また、介護職のやりがいや魅力、将来性を福祉施設、関係機関と連携して発信する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り組み（改善策等）
4 部活動や生徒会活動等への積極的参加を促し、看護や福祉の道を志す生徒にふさわしい人間力を育成する。	① 部活動推進週間の実施、部長会議の開催、必要に応じ個人面談を行い、全校生徒の部活動への積極的な参加を促す。	アンケートにて、部活動に積極的に参加できた生徒の割合が A　90%以上 B　70～90%未満 C　50～70%未満 D　50%未満　　である。	（アンケートより） 部活動に積極的に参加したと答える生徒の割合 86．5　% 評価　B	昨年度後期は77．7%であり、8．8ポイント上昇している。但し、前期と比較すると4．7ポイント低下、前期1・2年のみのデータと比較すると6．5ポイント低下している。部活動推進週間にて、活動への促しを行ったが前期同様の姿勢へは至らず。放課後の学習課題や実技練習などとの兼ね合いや2年新部長への指導等、生徒会としての指導や計画の見直しが必要であると考える。
	② 縄跳び（二重跳び）の実施により、自己記録の更新に努めながら、諦めない態度や体力の向上を図る。	二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満　　である。	二重跳びが連続30回以上出来る生徒の割合が 全校　83．2 % 1年生　82．5 % 2年生　85．5 % 3年生　81．8 % 評価　A	昨年度は目標を達成する学年はなく達成度も71．6%で終った。今年度はグループ活動を強化することにより、全学年が目標を達成し、全校においても83．2%と大きく更新した。来年度は、さらに全校生徒が積極的に取り組めるように目標数値を見直し、諦めない態度の育成の継続を図りたい。
	③ 強化週間を設けながら丁寧な挨拶をする習慣を身につける。	保護者アンケートで A　ほとんど全ての生徒が挨拶している。 B　多くの生徒が挨拶している。 C　挨拶している生徒は半数程度。 D　挨拶している生徒は半数以下。 A＋Bの割合が95%以上である。	4月のPTA総会 A＋B の割合 84．0% 7月の保護者懇談会 A＋B の割合 89．1% 12月の保護者懇談会 A＋B の割合 95．3% 評価　A	今年度も引き続いて挨拶励行を目標に掲げ取り組んできた。4月から徐々に挨拶の割合が高まってきている。生徒会の公安委員と協力しながら学期に1回強化週間を設け、「朝の挨拶運動」を実施してきた。全校的に挨拶が身についてきているが、今年度はやや達成度が低いと感じられる。日中、放課後の挨拶までとなると充分とはいえない。今後も継続した粘り強い指導がなければこの習慣の割合もすぐに低下すると考えられる。本校の伝統となるよう上級生からしっかりと定着させていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	看護師・介護福祉士を目指す生徒にとって、コミュニケーションの基となる挨拶はとても大きな意味を持つ。朝夕の生徒のさわやかな挨拶が、街の雰囲気を明るくしている。今後も、看護・福祉に携わる者としてふさわしい、明るく、元気な挨拶ができるよう指導を続けてもらいたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	きちんとした挨拶をすることは本校の生徒にとって基本であり、立ち止まっての挨拶を継続して指導する。